

ものがたり『お話のたきぎをあつめる人 魔法の図書館の物語』

ローレンティン妃&パウル・ヴァン・ローン/作 西村由美/訳 佐竹美保/絵 徳間書店



きっと、本やお話が大好きになる

森のはずれに、おじいちゃんくらしているステレは、本が大好き。でも、本を1さつしか持っていないで、何度も読んだので、その本は、ページがバラバラになってしまいました。

そんな時に、おじいちゃんから、だれも住んでいないおしろの中に、図書かんがあることを教えてもらいました。しかし、たくさんのドアから図書かんに入れるたった1つのドアを見つけなければ、きけんな目にあってしまいます…。

なんとか図書かんの中に入ったステレは、まるでゆめを見ているようでした。ゆかから、天じょうまで、ずらっと本がならんでいたのですから。ステレは、お中になって本を読みました。そして、自分だけが楽しんでいてはもったいないと、村の子どもたちにお話を語ってあげました。すると、子どもたちは大よろこび。しかし、そんなステレのことをよく思っていないあやしい男の子と、ま女があらわれて…。

ものがたりや、おはなしの力を感じることができるオランダのおとぎ話です。

としよしつ 図書室からのお知らせ

今年度さい後のかし出日は、しゅうりょう式のある3月24日(火)

です。春休み前に、たくさん本をかりておいてくださいね。

来年度は、始業式のある4月7日(火)から図書室が開いています。

春休み前にかりた本は、4月10日(金)までに返しましょう。

来年度もたくさん図書室に本をかりにきてくれることを楽しみに
ま待っています。

やわたしりつやわたししょうがっこうとしよしつ
八幡市立八幡小学校図書室

ほんのおたより

ねんせい ねんせいよう
(1年生～3年生用)



れいわ ねん がつ にちさいしゅうごう
令和8年3月11日最終号

さい後にもう1さつ読んでみて!

もうすぐ今年度が終わりますね。図書室にあるいろんな本を読むことができたか。自分の読める本はふえましたか。好きな本は見つかりましたか。本のおたよりも今年度さい終号です。今の学年のうちに読んでみてほしいおすすめの本をしょうかいするので、さい後にもう1さつかりてみませんか。ぜひ、図書室で本をかりて、春休みにゆっくり読んでみてくださいね。

えほん『ぼくのきもちはね』コリ・ドーフェルド/作 石津ちひろ/訳 光村教育図書

お友だちがいない時、どうしてあげたらいいのかな?

ぼくの
きもち
はね



つみきて大きなおしろをかんせいさせて、だいまんぞくのテイラー。ところが、そこへ、とりがとんできて、おしろはバラバラにくずれてしまいました。

かなしんでいるテイラーの元に、いろいろな動物がやってきて、テイラーをなぐさめようとしています。ニワトリは、「なにがあったの? さあさあ、話してちょうだい。」と、せかします。クマは、「頭にきたときは、さけぶんだ。」と、さげびます。へびは、「わるいやつらに、し返しするんだ。」と、いいます。でも、テイラーは、だれとも、何もしたくありません。

そこに、とてもしずかにウサギがやってきて、テイラーによりそってくれました…。

えほん『バジとあかいボール』 松丘コウ/作・絵 フレーベル館



ゆう気を出してちょうせんしてみよう

げつようび 月曜日、バジは、きんようび 金曜日にあるうた 歌のテストがいやで、ゆううつでした。みんなの前で歌を歌うのがはずかしいからです。そんなときに、バジは、あかいボールを見つめました。そのボールは、「すすめ!」と、となえると、じかん 時間が進むボールだったのです。

バジは、いやなことがあるたびに、このボールをつかって、じかん 時間を進めてしまおうかと考えますが、うた 歌のテストのときまで、がまんしようと、1度もボールを使わないでいました。すると、いやなことがあっても、ボールにたよらないでやりすごすことができたから、うた 歌のテストも上手いくかもしれないと思えてきました。

そして、いよいよ、うた 歌のテストの日になりました。バジは、ゆう気を出して、うた 歌を歌うことができるでしょうか?

えほん『わたし、もうすぐ2ねんせい!』 いちねんせいの1年間シリーズ

くすのきしげのり/作 江頭路子/絵 講談社 また1つ大きくなるみなさんへ

しょうがっこう 小学校のそつぎよう式をむかえる6年生のお姉ちゃんと、1年生の妹のみさとちゃん。いつもよりお姉さんに見えるお姉ちゃんに、みさとちゃんは、まだ「おめでとう。」と、言えていません。

そつぎよう式で、お姉ちゃんはピアノをひくのですが、学校に向かっているときに、みさとちゃんは、「ピアノ、きつと、まちがえますよーだ。」といじわるなことを言ってしまう。

そつぎよう式が始まり、お姉ちゃんがピアノをひく番が回ってきました。じゅんちょうにピアノをひきはじめたお姉ちゃんでしたが、とちゅうで音が止まってしまったのです。みさとちゃんは、自分がいじわるなことを言ったせいだと思ひ、なみだが出てきました。でも、だいじょうぶ。お姉ちゃんのピアノの音を、みんなだまって待っていてくれました…。

そつぎよう式の帰り道、みさとちゃんは、ようやく、お姉ちゃんにつたえたかったおもいをすなおにつたえることができたようです。二人での帰り道もこれでさいご後。4月からは、1年生をつれていってあげる2年生のお姉さんです。



ものがたり『へっちゃんらトーマス』



パット・ハッチンス/文・絵 小宮由/訳 大日本図書

字をおぼえないと、どうなるのかな?

トーマス・ミードという男の子は、1度も字をおぼえようとしたことがありません。先生に、「字をおぼえなさい。」と、言われても、トーマスは、「かんけいがないね。」と、言うのです。なので、町のひょうしきや、かんばんに書いてある文字や、お店のあんなひょうじの文字も読むことができません。

ある日、トーマスがでかけていると、「きけん ペンキぬり さぎようちゅう」という立てふだがあったのですが、字を読むことができないトーマスは、そこをとおってしまい、ペンキを頭にかぶってしまいます。他にも、エレベーターの「上下」も読めないし、トイレの「男女」も読めません。そして、とうとうだいけんをおこしてしまいます…。

みなさんも、この本を読むと、字や言葉をおぼえたくならないと思ひますよ。

ものがたり『紙ひこうき、きみへ』 野中 終/作 木内達朗/絵 偕成社

自分の気持ちを大切にとどけよう

シマリスのキリリが、ひなたぼっこをしていると、あお 青い紙ひこうきがとんできました。紙をひらいてみると、「こんにちは、夕方にはそちらにつきます。」と、書いてあります。

キリリは、だれか分からないお客さんのために、りょう理をつくって待つことにしました。すると、そこに、ミケリスのミークがあらわれます。二人は、とてもなかよくなり、いっしょにごはんを食べたり、ダンスをおどったりしてすごしました。

でも、ある日、ミークは、「もう行かなくちゃ。」と、旅に出ます。はなればなれになった二人は、だんだんとさみしくなり、会いたい気持ちが強くなっていきました。そして、おたがいに気持ちをとどけようとしていますが、そのとどけ方がちよっとかわっているのです…。

さて、二人は、ふたたび出会うことができるのでしょうか?

